



食育の芽



第11号 2018.8発行
発行：すみだ食育goodネット事務局

活動の共通姿勢を言語化するまでのプロセスを、協力して発表した

ゼロ 「0からの響創育」スタート!

すみだ食育 good ネット（以下「good ネット」と略）が誕生して9年目。多様な食育活動を実現し、2015年には墨田区・内閣府主催の「第10回 食育推進全国大会 in すみだ 2015」で、多くの方々のご協力とご支援によって、大会運営の役割を果たしました。

その後、思わぬ状況の変化もあり、進むべき方向について議論を重ねてきましたが、good ネットは「すみだの食育」を貫くため活動を続けてきました。そして、さらに今後も活動を継続するために過去の歩みをふり返り、「響く」・「創る」・「育む」の3つの要素が重要だという結論に至りました。この3要素を心に刻むため、「0からの響創育」を活動の共通姿勢とすることにしました。

5月に開催された総会で、今後「0からの響創育」を活動の共通姿勢とすることが確認されました



goodネットが新たに掲げた「響創育」は、区の食育推進計画の「協創」ともリンクしている



5月に行われたgoodネットの総会のようす



総会では特別講演も行われた。講師は、ひらがなネット(株)取締役の吉澤弥重子さん、テーマは『食を通して、国際交流を楽しもう!』



すみだ青空市ヤッチャバ 開催300回 その継続の秘密とは？



青空市の事務局を務める
細田侑さん

曳舟駅前毎週土曜日に開催されている「すみだ青空市ヤッチャバ」では、生産者が野菜や果物、生花などを販売しています。市場誕生のきっかけは、統計上農家がない墨田区に、農産物を「つくる人」と「食べる人」との距離を縮め、両者がつながる場所をつくりたい。また、双方が豊かな暮らしを支え合える関係をつくりたいとの想いでした。これを実現するため、全国から生産者を招き2010年に青空市がスタート、今年5月に300回を超えたのです。

活動がここまで継続した秘密を探るため、出店者と青空市の事務局メンバーに話を聞きました。

出店者の声

継続のカギはコミュニケーション

ヤッチャバでは、自分が作ったトマトやキュウリについて、お客さんに説明できるのがいいね。それで買ってくれたお客さんが、「トマト、おいしかったよ」とまた買いに来てくれる。うれしいですよ。

事務局の若者は、がんばっていますね。商品を並べ、テントを張るのを手伝ってくれて、生産農家のことを考えてくれていると感じます。また、いろんな情報を伝えてくれるのも、ありがたいね。そんな感じでコミュニケーションを大切にしてきたから、今まで市場が続いてきたんじゃないかな。



話を聞いた野菜農家の西村さん。お客さんに丁寧に説明をしながら販売していた

西村さんと事務局の細田さんのツーショット。手に持つのは西村さんが作ったトマトとキュウリ



上：お客さんと会話をする事務局の細田さん

右：300回記念のイベントで司会を担当



事務局の声

考えや想いをできるだけ理解したい

遠くから来てくださる出店者さんと、買い物に来てくださるお客さんに、楽しんで、喜んでもらうことが大事じゃないかと。そして、そういう場に立ちあえることが、自分自身のモチベーションにもなっています。

出店者のみなさんの考え方や想いには微妙に違いがあるので、それぞれの考えや想いを、できるだけ理解したいと思っています。そのためにも、出店者の方の作業を手伝いながら、いろいろ話をさせてもらっている感じですね。ほかにも事務局のメンバーとも、市場の運営方針についてよく話し合いをしています。

児童館を中心にスタート 地域の特徴を活かした、区民提案の取組

2017年度に改定した「墨田区食育推進計画」では、地域の特徴を活かした、区民提案の取組の推進を目指しています。そのために、様々な食育活動を行ってきた児童館を中心に2つのモデル地域（北部：墨田児童会館、南部：立川児童館）を設定。ワークショップを実施して、新しい取組のアイデアが誕生しました。そのアイデアは、どのようにして開花したのでしょうか？



立川児童館の「ひまわりカフェ」。昨年度、今後の方針について話し合いが行われたようす

墨田児童会館(北部)

しょくいくかい 食19会

食19会では、毎月19日に地域の人やgoodネットのメンバーが児童館などに集まり、取組について話し合いを重ねてきました。昨年度は、旧向島中学校校庭で開催された『江戸に浸かる』～隅田川森羅万象 墨に夢に協力参加。子ども屋台で、当日参加の子どもたちと一緒に販売体験をしました。



子どもたちと一緒に参加した「子ども屋台」のようす

立川児童館(南部)

ひまわりカフェ

ひまわりカフェは、カフェのように気軽にコミュニケーションができる場をつくることを目指し、昨年度スタートしました。参加者は、各自が持参した軽食を食べながら、立川児童館を中心に毎年開催されている「立川フェスティバル」への参加に向けて話し合いを重ね、当日は展示を行いました。



立川フェスティバルでは、トマトの成長日記や、すみだの食育活動の展示を行った

活動の原点になったワークショップ

墨田児童会館と立川児童館を中心に、区民提案の取組を始めるため、2016年にワークショップが行われました。参加者は区民・学生・若者・地域団体・事業者・企業などの関係者など。両児童館で3回ずつ開催されたワークショップでは、地域の魅力を再確認した上で、「食で育みたい想い」や「大切にしたい想い」、「やってみたいこと」を話し合い、それをもとに具体的な取組案をつくりました。



ワークショップの成果を共有するために実施された報告会。各グループとも寸劇の形式で発表した

食育で、子どもたちが
がんばれる場をつくる

こども商店街



事前学習をした店の商品を販売する子どもたち。
おつりを間違えないよう、何度も確認をする



会場を訪れた山本区長に
商品の説明をする



活動終了後、goodネットのメン
バーが子どもたちを見送る

6月に行われた「すみだ食育フェス 2018」の最終日、こども商店街が開催され、区内の全児童館の子どもたちが、各児童館の近くにある商店の商品を販売しました。

この取組は、2015年に開催された「第10回食育推進全国大会 in すみだ2015」でスタート。以降、毎年行われています。特徴は、活動を通して子どもたちがより深く学べるよう事前学習を実施していることです。goodネットのメンバーは、事前学習から当日の販売までサポートしました。

参加した小学生の感想

- お客さんに商品を買ってもらって、すごくうれしかったです。
- (事前学習で)お店の内側を見ることができて、とても楽しかったです。

参加児童館と協力商店

墨田児童会館、八広児童館、江東橋児童館、東向島児童館、立花児童館、立川児童館、文花児童館、中川児童館、外手児童館、八広はなみずき児童館、さくら橋コミュニティセンター
東あられ本舗、バナナファクトリー、かめぼん、埼玉屋小梅、魚八栄五郎、坂本せん餅、Le Coeur、隅田屋商店、みすゞ、三善豆腐工房、中田屋茶舗、梅鉢屋、カフェ POKAPOKA、墨田さんさんプラザ

食育人に 会いに行こう

今回は、こども商店街に参加した、さくら橋コミュニティセンターの館長を務める山田英さんに話を聞きました



山田 英さん

2013年よりさくら橋コミュニティセンター館長。子どもたちとしっかり関わるため普段からスポーティーな服装が多い



こども商店街に参加したさくら橋コミュニティセンターの子どもたち

今日は、子どもたちがすごくがんばってくれました。子どもたちは、こういう活動が好きなんですね。販売を体験できる機会は普段ありませんから、最初にこども商店街の話をもらったとき「ぜひやらせてください」と答えました。児童館の活動を地域の方に知っていただく機会だし、子どもたちにも貴重な体験になると思ったからです。

そのために大切にしたいのが事前学習です。実際にお店に伺ったり、お店の方に児童館に来ていただいたりして、商品を作るようすを見せてもらい、お店の方の話を聞く。商品知識だけでな

く、商品に込めた想いを知って販売することが大事だと思ったからです。今はパツと買って、パツと食べられる時代。でも、裏にはいろいろな方の仕事があると知ってほしかったんですね。

事前学習をするには、お店の方との打ち合わせや調整が必要です。それを担当する職員にとっても、成長のチャンスになるんですよ。同時に、お店の方とのつながりも深くなる。子どもたちが育っていくには、多様な人が関わってくださる場が必要だと実感しています。そのためにも、こども商店街はよい機会だと感じています。